

2014/8/20

柏の景気情報（平成26年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援一課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年7月分）

○ 調査期間 : 平成26年7月18日 ~ 7月24日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	81	51.9%
建設	44	24	54.5%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	26	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年7月の調査結果のポイント】

≪業況DIは僅かに回復するも、売上減、コスト増で先行きは依然厳しい≫

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲27.0)となり、マイナス幅が4.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業△4.1(同▲4.0)、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲18.7(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲61.5(同▲57.1)である。

【建設業】からは、「消費税増税の影響がまだ濃く、依然として受注が少ない」(石工れんがタイルブロック工事業)、「クロス工事は、9月頃まで何とかいけそう。新築住宅はかなり厳しい。リフォーム工事は好調が続くそう」(その他の職別工事業)、「7月は雨と業者不足による工事の遅れが重なり、売上減少となった。見積り依頼は多いが、材料は上がっているのに、施工単価は下がり、採算が合わず受注出来ない。また、ゼネコンも施工単価に余裕が無いようで、方々へ見積りを依頼しているようだ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「売上高は前年度に比して減少のまま。弊社に於いては、7月売上回復に期待していたが難しい。経費を抑えようとしても、必要経費であり、削ることも難しい。粗利の幅が無ければ赤字となる」(印刷業)、「今月は特別事情により生産量は回復したが、今後の見通しは立っていない」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「セールは6月スタートの影響もあり、7月は失速。ただし、衣料品は前年水準まで回復しつつある。時計・宝飾品の高額品および化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は、トレンド上昇も前年割れ継続。中元ギフトは客単価・商品単価とも前年並みで推移」(百貨店)、「7月に入りバーゲンに突入したが、例年に比べ不調。当社の6月は増税に拘わらず順調に推移していたが、今月はバーゲンが入出少なく苦戦中。婦人服業界は、全体に沈みっぱなしで良いというメーカーは全く無い」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「夏を迎え、豚流行性下痢(PED)の大規模な流行により、豚肉の値上げが止まりません」(食堂・レストラン)、「この地域の不動産の路線価が上昇傾向とのことで、来年以降の固定資産税の上昇を懸念。光熱費等の管理諸経費用の上昇を肌で感じているところなので、収支項目の見直しを行っていく予定です」(不動産賃貸・管理業)、「法人需要では、前月同様、秋の職場旅行、招待旅行の案件が活発化している。活況ゆえ職場旅行意欲はあるものの、仕事を止めることができず旅行を断念する企業もある。国土交通省定めによる新貸切バス運賃制度による貸切バス代金の上昇。個人需要の海外では、夏から秋にかけてフランス周遊・美術館めぐりが女性グループに人気。秋に南の島、ヨーロッパでのウェディングが人気。国内は、相変わらず某テーマパークが人気。某旅行商品による優先入場やアトラクションの待ち時間短縮により。また、紅葉時期の京都、10月の北海道の申込の問い合わせが増えている」(旅行業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「アルバイトの応募が無く、時給の見直しを考えている。また、パートさん、高齢者も含めて考える時期になってきているのかも知れない。しかしながら、居酒屋での高齢者雇用はどうなのか、自問自答しているところである」(酒場・ビヤホール)、「業者不足、人手不足状態が続いているが、何も改善されず、業況は悪化しているように見える。消費税増税後、特に悪化している」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減

各業種から、「売上がなかなか戻らない。客単価は上がっているが、客数の落ち込みが大きい。消費税が上がってからは無駄なものは一切買わない傾向になっている」(その他の各種商品小売業)、「前々月、前月の売上は落ち着いていたが、何れも前年より落ち込んでいる。小売店では、景気の『上向き』が見えない」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種から、「引き続き、SUS(ステンレス鋼)、アルミの材料の金額が高騰を続けており、原価を圧迫している。原油価格の高騰も同様である。アジア諸国の賃金の上昇により、海外協力会社より、強い価格アップの要望が続く」(その他の機械・同部品製造業)、「受注、売上は増加しているが、人材が不足傾向にあり、仕入価格や経費の増加で利益は出ない」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
見通し	▲14.8	△8.3	▲6.2	▲46.1	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年7月の業況についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲27.0)となり、マイナス幅が4.8ポイント縮小した。

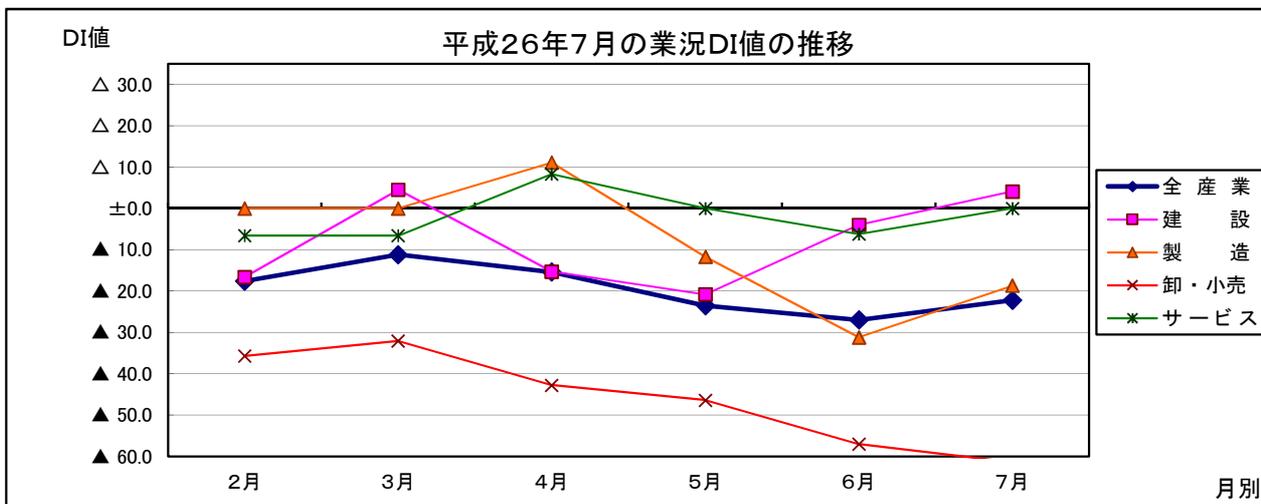
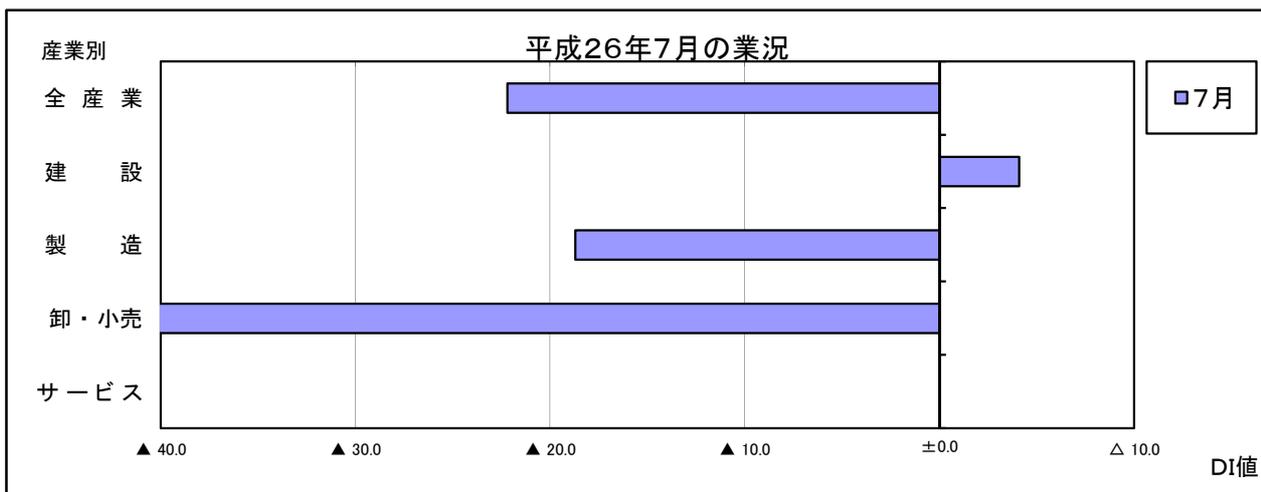
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業△4.1(同▲4.0)、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲18.7(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲61.5(同▲57.1)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.8(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△8.3(同▲4.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.2(△12.5)、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲46.1(同▲32.1)である。

平成26年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲17.6	▲11.2	▲15.4	▲23.5	▲27.0	▲22.2	▲14.8(▲9.4)
建設	▲16.6	△4.5	▲15.3	▲20.8	▲4.0	△4.1	△8.3(▲4.0)
製造	±0.0	±0.0	△11.1	▲11.7	▲31.2	▲18.7	▲6.2(△12.5)
卸・小売	▲35.7	▲32.1	▲42.8	▲46.4	▲57.1	▲61.5	▲46.1(▲32.1)
サービス	▲6.6	▲6.6	△8.3	±0.0	▲6.2	±0.0	▲6.6(±0.0)



【平成26年7月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.2(前月水準▲10.5)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大した。

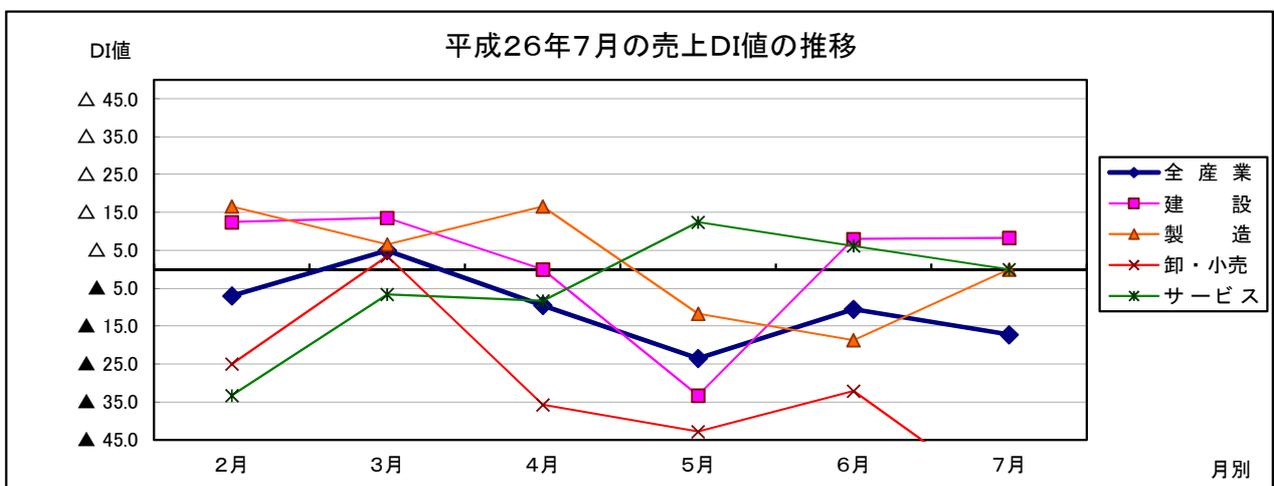
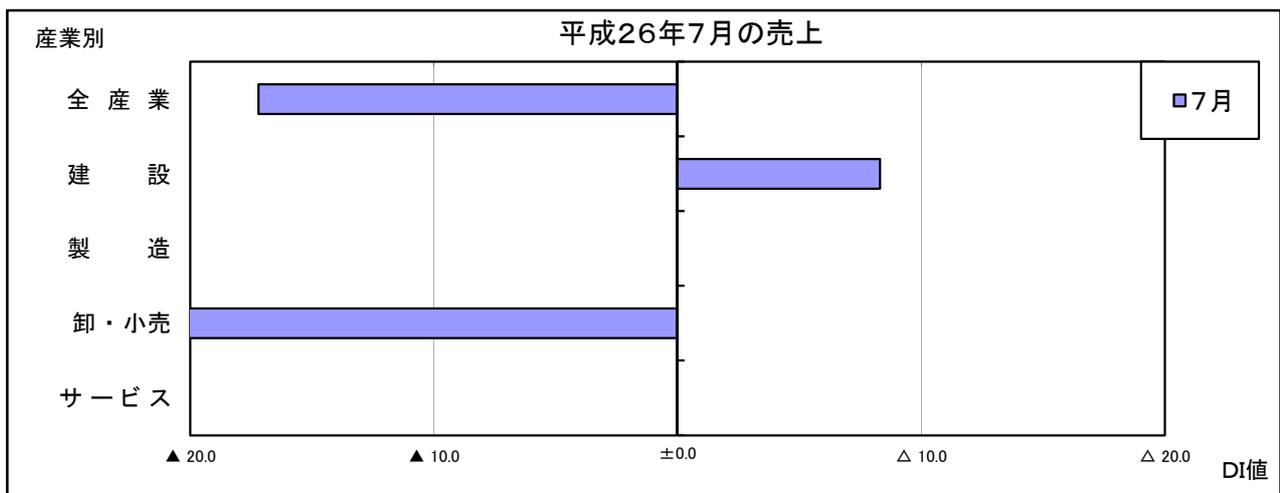
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、建設業△8.3(同△8.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲18.7)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲61.5(同▲32.1)であり、▲29.4ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.1(前月水準△2.3)となり、マイナス方向へ13.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△20.0(△18.7)、建設業△25.0(同△24.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲18.7(同△6.2)であり、▲24.9ポイントと大幅に悪化する見込みである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲57.6(同▲28.5)であり、▲29.1ポイントと大幅に悪化する見込みである。

平成26年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲7.0	△5.0	▲9.5	▲23.5	▲10.5	▲17.2	▲11.1(△2.3)
建設	△12.5	△13.6	±0.0	▲33.3	△8.0	△8.3	△25.0(△24.0)
製造	△16.6	△6.6	△16.6	▲11.7	▲18.7	±0.0	▲18.7(△6.2)
卸・小売	▲25.0	△3.5	▲35.7	▲42.8	▲32.1	▲61.5	▲57.6(▲28.5)
サービス	▲33.3	▲6.6	▲8.3	△12.5	△6.2	±0.0	△20.0(△18.7)



【平成26年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 2(前月水準▲30. 5)となり、マイナス幅が8. 3ポイント縮小した。

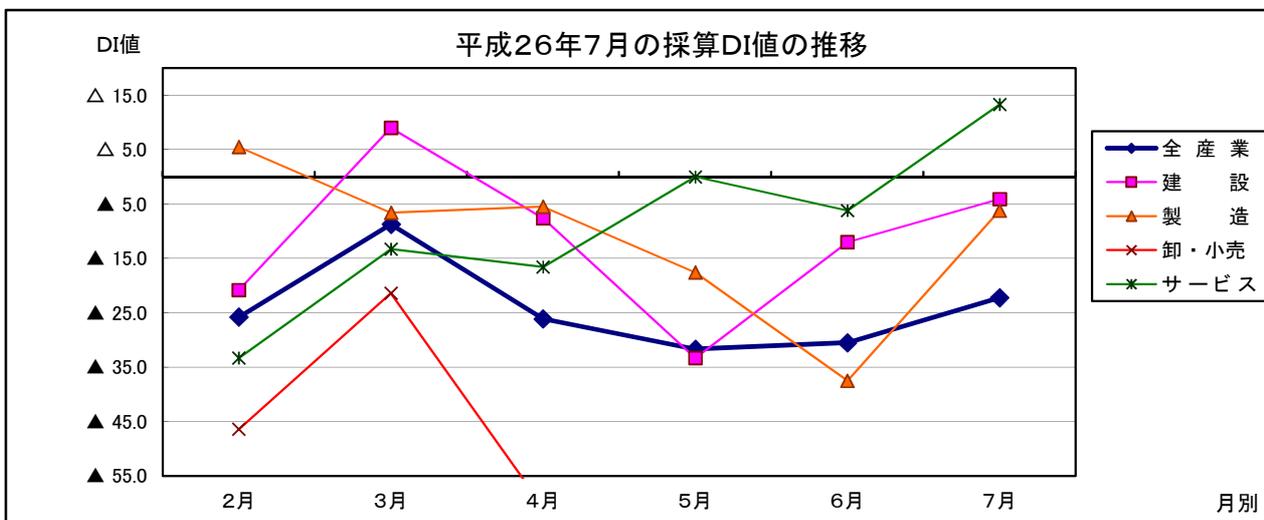
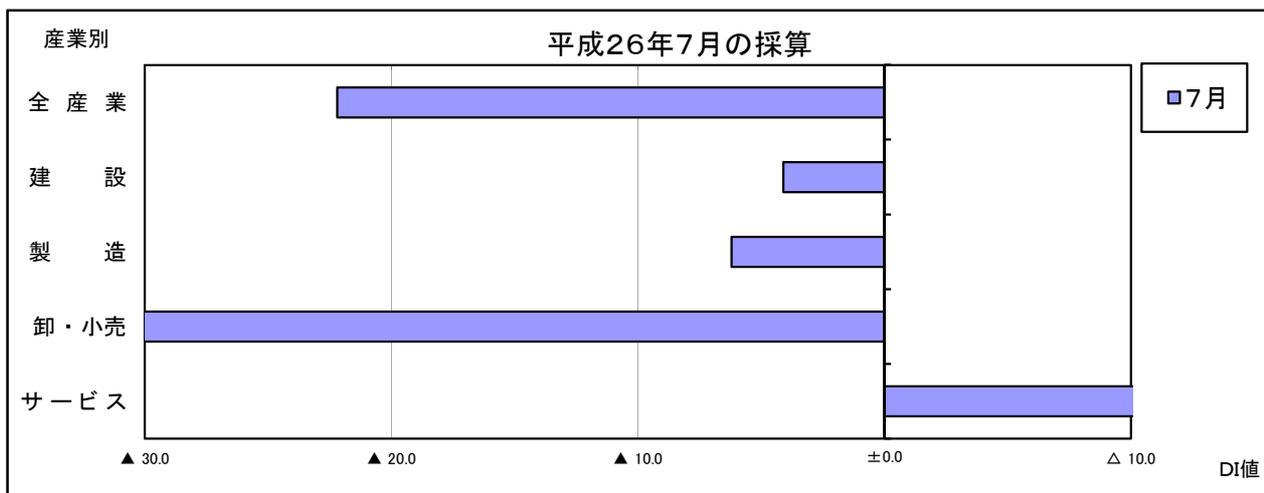
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△13. 3(同▲6. 2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6. 2(同▲37. 5)、建設業▲4. 1(同▲12. 0)であり、特に、製造業はマイナス幅が31. 3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲69. 2(同▲57. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 8(前月水準▲17. 6)となり、マイナス幅が2. 8ポイント縮小する見通しである。

プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20. 0(同±0. 0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4. 1(同▲12. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25. 0(同▲6. 2)、卸小売業▲46. 1(同▲39. 2)である。

平成26年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲25.8	▲8.7	▲26.1	▲31.7	▲30.5	▲22.2	▲14.8(▲17.6)
建設	▲20.8	△9.0	▲7.6	▲33.3	▲12.0	▲4.1	△4.1(▲12.0)
製造	△5.5	▲6.6	▲5.5	▲17.6	▲37.5	▲6.2	▲25.0(▲6.2)
卸・小売	▲46.4	▲21.4	▲60.7	▲57.1	▲57.1	▲69.2	▲46.1(▲39.2)
サービス	▲33.3	▲13.3	▲16.6	±0.0	▲6.2	△13.3	△20.0(±0.0)



【平成26年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.9(前月水準▲49.4)となり、マイナス幅が7.5ポイント縮小した。

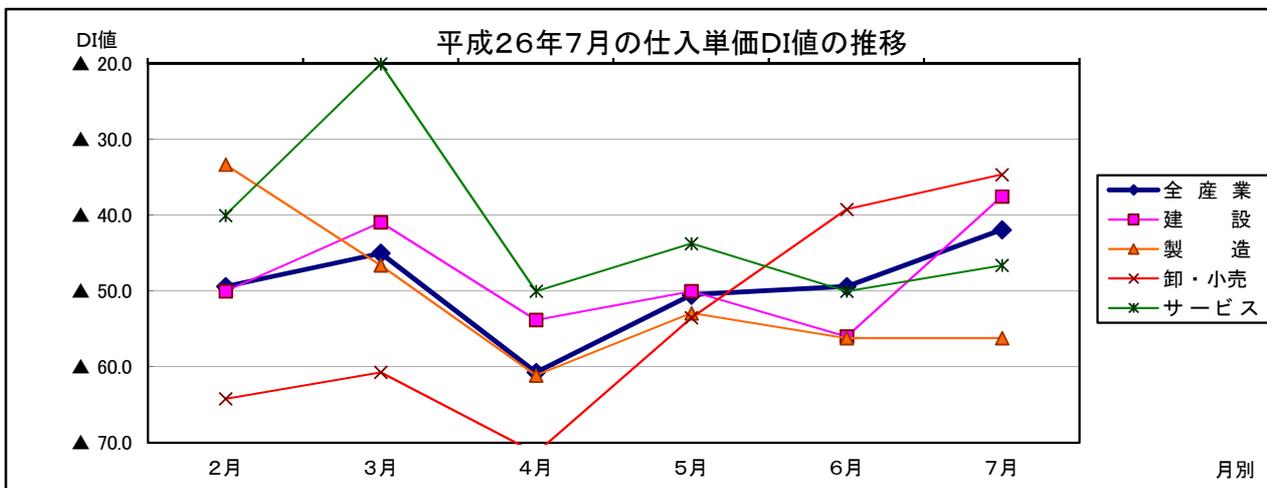
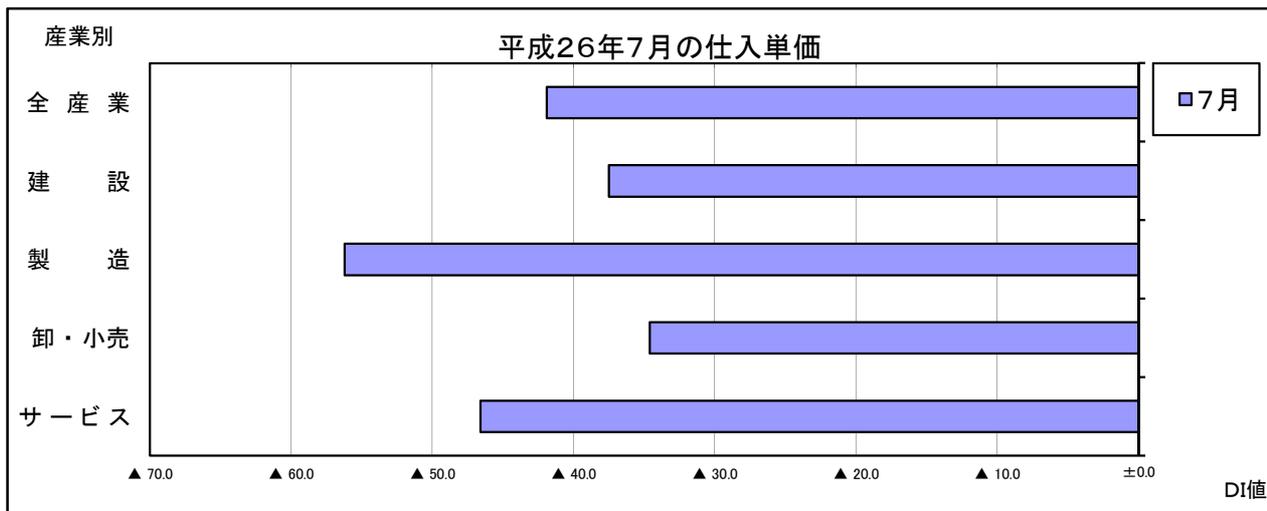
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲56.0)、卸小売業▲34.6(同▲39.2)、サービス業▲46.6(同▲50.0)である。変らない業種は、製造業▲56.2である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.0(前月水準▲35.2)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲43.7)、卸小売業▲34.6(同▲39.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲23.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、製造業▲18.7(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲45.8(同▲36.0)である。

平成26年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲49.4	▲45.0	▲60.7	▲50.5	▲49.4	▲41.9	▲32.0(▲35.2)
建設	▲50.0	▲40.9	▲53.8	▲50.0	▲56.0	▲37.5	▲45.8(▲36.0)
製造	▲33.3	▲46.6	▲61.1	▲52.9	▲56.2	▲56.2	▲18.7(▲18.7)
卸・小売	▲64.2	▲60.7	▲71.4	▲53.5	▲39.2	▲34.6	▲34.6(▲39.2)
サービス	▲40.0	▲20.0	▲50.0	▲43.7	▲50.0	▲46.6	▲20.0(▲43.7)



【平成26年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準△2.3)となり、マイナス方向へ2.3ポイント拡大した。

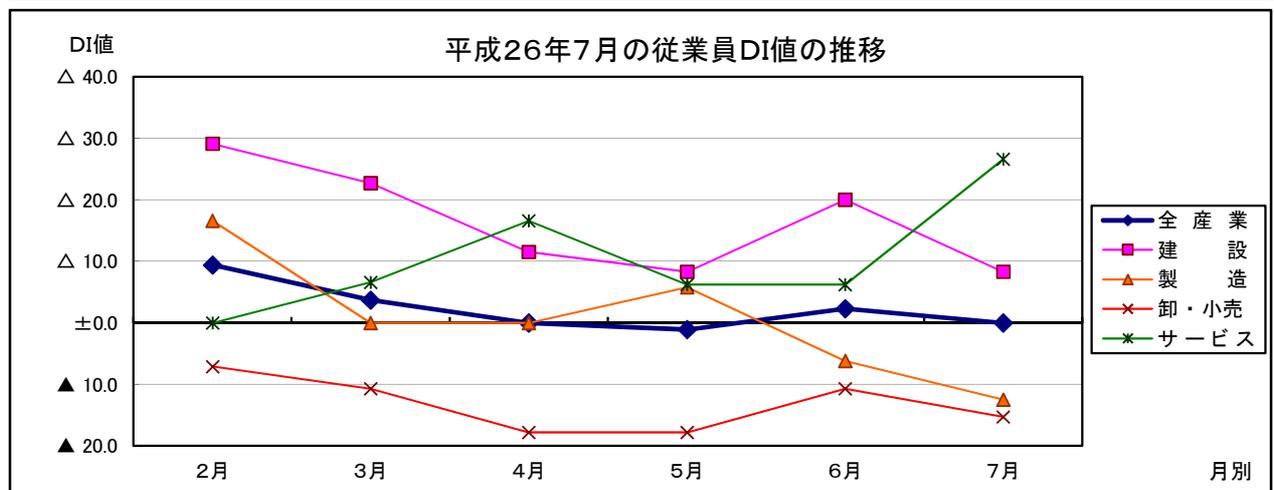
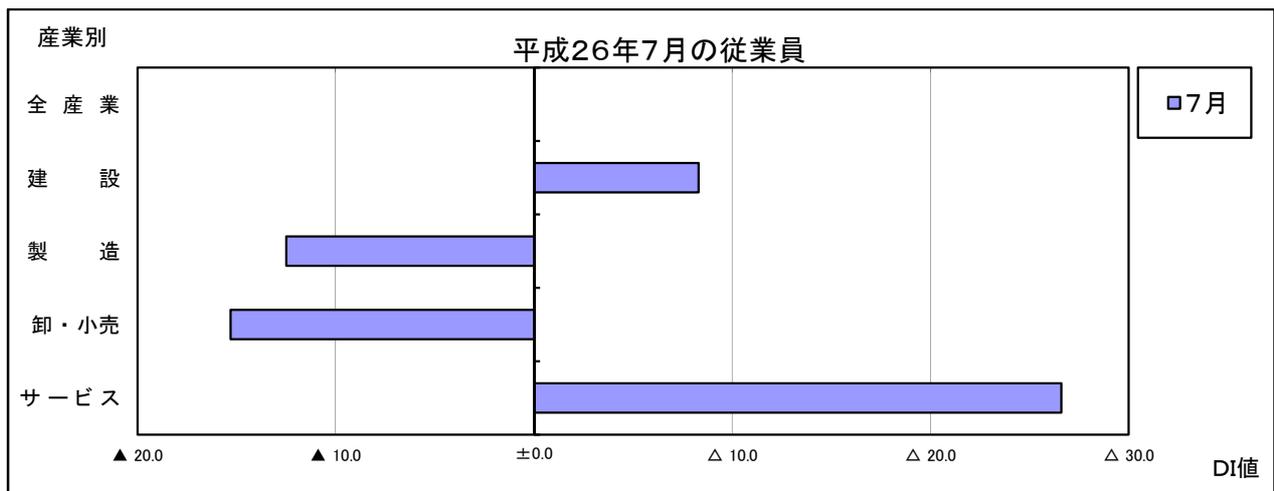
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△26.6(同△6.2)であり、プラス幅が20.4ポイントと大幅に拡大した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.3(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲6.2)、卸小売業▲15.3(同▲10.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.9(前月水準△4.7)となり、プラス幅が0.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△26.6(同△18.7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲12.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△12.5(同△24.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲15.3(同▲10.7)である。

平成26年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△ 9.4	△ 3.7	±0.0	▲ 1.1	△ 2.3	±0.0	△ 4.9 (△ 4.7)
建設	△ 29.1	△ 22.7	△ 11.5	△ 8.3	△ 20.0	△ 8.3	△ 12.5 (△ 24.0)
製造	△ 16.6	±0.0	±0.0	△ 5.8	▲ 6.2	▲ 12.5	△ 6.2 (▲ 12.5)
卸・小売	▲ 7.1	▲ 10.7	▲ 17.8	▲ 17.8	▲ 10.7	▲ 15.3	▲ 15.3 (▲ 10.7)
サービス	±0.0	△ 6.6	△ 16.6	△ 6.2	△ 6.2	△ 26.6	△ 26.6 (△ 18.7)



【平成26年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.3(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

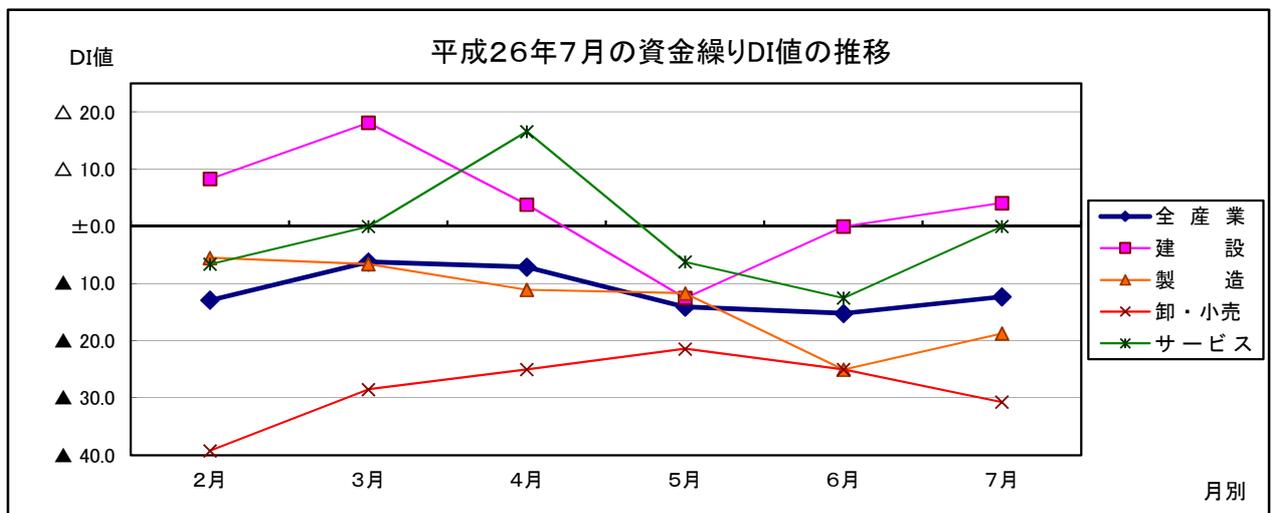
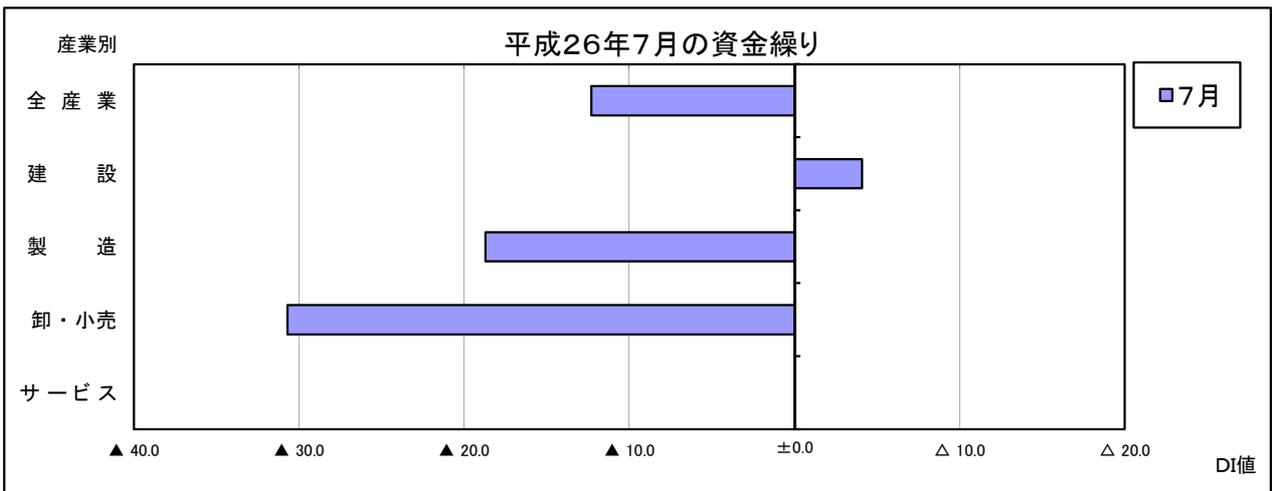
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△4.1(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲18.7(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲30.7(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲12.9)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲12.5)、建設業△8.3(同▲4.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲6.2(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲34.6(同▲21.4)である。

平成26年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲12.9	▲6.2	▲7.1	▲14.1	▲15.2	▲12.3	▲9.8(▲12.9)
建設	△8.3	△18.1	△3.8	▲12.5	±0.0	△4.1	△8.3(▲4.0)
製造	▲5.5	▲6.6	▲11.1	▲11.7	▲25.0	▲18.7	▲6.2(▲12.5)
卸・小売	▲39.2	▲28.5	▲25.0	▲21.4	▲25.0	▲30.7	▲34.6(▲21.4)
サービス	▲6.6	±0.0	△16.6	▲6.2	▲12.5	±0.0	±0.0(▲12.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 14.8	▲ 41.9	▲ 32.0	±0.0	△ 4.9
建設	△ 8.3	△ 25.0	▲ 4.1	△ 4.1	▲ 37.5	▲ 45.8	△ 8.3	△ 12.5
製造	±0.0	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 56.2	▲ 18.7	▲ 12.5	△ 6.2
卸・小売	▲ 61.5	▲ 57.6	▲ 69.2	▲ 46.1	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 15.3	▲ 15.3
サービス	±0.0	△ 20.0	△ 13.3	△ 20.0	▲ 46.6	▲ 20.0	△ 26.6	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.2	▲ 14.8	▲ 12.3	▲ 9.8
建設	△ 4.1	△ 8.3	△ 4.1	△ 8.3
製造	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.2
卸・小売	▲ 61.5	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 34.6
サービス	±0.0	▲ 6.6	±0.0	±0.0

【平成26年7月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	人手が不足している状況である。	人手不足	土木工事業
	消費税増税の影響がまだまだ濃く、依然として受注が少ない。	消費税増税 受注減	石工れんがタイルブロック工事業
	受注、売上は増加しているが、人材が不足傾向にあり、仕入価格や経費の増加で利益は出ない。	人手不足 原材料費高騰 経費の増加	電気工事業
	だんだん暑い日が続くので、フローリング上でのべたつき感を嫌気してか、畳工事の受注が増え、景況が改善。	受注増 景況改善	内装工事業
	クロス工事は、9月頃まで何とかいけそう。新築住宅はかなり厳しい。リフォーム工事は好調が続けそう。	新築住宅 リフォーム工事	その他の職別工事業
	7月は雨と業者不足による工事の遅れが重なり、売上減少となった。見積り依頼は多いが、材料は上がっているのに、施工単価は下がり、採算が合わず受注出来ない。また、ゼネコンも施工単価に余裕が無いようで、方々へ見積りを依頼しているようだ。業者不足、人手不足状態が続いているが、何も改善されず、業況は悪化しているように見える。消費税増税後、特に悪化している。	業者不足 売上減 施工単価下落 不採算 人手不足 消費税増税	その他の職別工事業
製造業	引き続き、SUS(ステンレス鋼)、アルミの材料の金額が高騰を続けており、原価を圧迫している。原油価格の高騰も同様である。アジア諸国の賃金の上昇により、海外協力会社より、強い価格アップの要望が続く。	原材料費高騰 アジア諸国賃金上昇	その他の機械・同部品製造業
	売上高は前年度に比して減少のまま。弊社に於いては、7月売上回復に期待していたが難しい。経費を抑えようとしても、必要経費であり、削ることも難しい。粗利の幅が無ければ赤字となる。	売上減	印刷業
	今月は特別事情により生産量は回復したが、今後の見通しは立っていない。	見通し不透明	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	セールは6月スタートの影響もあり、7月は失速。ただし、衣料品は前年水準まで回復しつつある。時計・宝飾品の高額品および化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は、トレンド上昇も前年割れ継続。中元ギフトは客単価・一商品単価とも前年並みで推移。	セールの失速 衣料品回復 増税後の反動減 中元ギフト	百貨店
	7月に入りバーゲンに突入したが、例年に比べ不調。当社の6月は増税に拘わらず順調に推移していたが、今月はバーゲンが入出少なく苦戦中。婦人服業界は、全体に沈みつつは良いというメーカーは全く無い。	バーゲン不調 業界不調	婦人・子供服小売業
	売上がなかなか戻らない。客単価は上がっているが、客数の落ち込みが大きい。消費税が上がってからは無駄なものは一切買わない傾向になっている。	売上減 客単価増 客数減 消費税増税	その他の各種商品小売業
	所得より物価上昇の方が大きいのではないかと見えないところの買い控えがありそうだ。	買い控え	書籍・文房具小売業
	最近の青果物状況は、野菜は総じて低調な取引で消費者の購買も弱い。その中、葉物は大雨高温の影響から今後高値に推移される予想も。また、果実は前年並みで推移している状況です。先日の梅雨明けから、季節の果実などが祭りで消費されることを期待しています。また、一部の景気向上も経済活性化に繋がって欲しいものです。	購買力低下 葉物の高値推移	食料・飲料卸売業

【平成26年7月の業種別業界内トピックス】

	前々月、前月の売上は落ち着いていたが、何れも前年より落ち込んでいる。小売店では、景気の「上向き」が見えない。	売上減	その他の各種商品小売業
	アルバイトの応募が無く、時給の見直しを考えている。また、パートさん、高齢者も含めて考える時期になってきているのかも知れない。しかしながら、居酒屋での高齢者雇用はどうなのか、自問自答しているところである。	アルバイト応募減 時給見直し 人手不足	酒場・ビヤホール
	夏を迎え、豚流行性下痢(PED)の大規模な流行により、豚肉の値上げが止まりません。	豚流行性下痢(PED) 豚肉の値上げ	食堂・レストラン
サービス	法人需要では、前月同様、秋の職場旅行、招待旅行の案件が活発化している。活況ゆえ職場旅行意欲はあるものの、仕事を止めることができず旅行を断念する企業もある。国土交通省定めによる新貸切バス運賃制度による貸切バス代金の上昇。個人需要の海外では、夏から秋にかけてフランス周遊・美術館めぐりが女性グループに人気。秋に南の島、ヨーロッパでのウェディングが人気。国内は、相変わらず某テーマパークが人気。某旅行商品による優先入場やアトラクションの待ち時間短縮により。また、紅葉時期の京都、10月の北海道の申込の問い合わせが増えている。	法人需要の活性化 新貸切バス運賃制度 テーマパーク シーズン商品	旅行業
	前月に続き、仕入単価は上昇しています。建築単価は上がっています。低額の戸建住宅やマンションの引き合いは増えています。	仕入単価上昇 建築単価増 低額戸建・マンション	不動産管理業
	D街区の再開発で、作業員の方やゼネコンの方の飲食等が多くなり、周辺のお店に良い影響が出ていると思います。		不動産賃貸業
	この地域の不動産の路線価が上昇傾向とのことで、来年以降の固定資産税の上昇を懸念。光熱費等の管理諸経費用の上昇を肌で感じているところなので、収支項目の見直しを行っていく予定です。	不動産路面価上昇 固定資産税上昇 管理諸経費上昇	不動産賃貸・管理業
	大手企業が末端の仕事まで取っていくので状況は日照り状態。		ソフトウェア業

◎人手不足

アルバイトの応募が無く、時給の見直しを考えている。また、パートさん、高齢者も含めて考える時期になってきているのかも知れない。しかしながら、居酒屋での高齢者雇用はどうなのか、自問自答しているところである。

酒場・ビヤホール

業者不足、人手不足状態が続いているが、何も改善されず、業況は悪化しているように見える。消費税増税後、特に悪化している。

その他の職別工事業

◎売上減

売上がなかなか戻らない。客単価は上がっているが、客数の落ち込みが大きい。消費税が上がってからは無駄なものは一切買わない傾向になっている。

その他の各種商品小売業

前々月、前月の売上は落ち着いていたが、何れも前年より落ち込んでいる。小売店では、景気の「上向き」が見えない。

その他の各種商品小売業

◎原材料費高騰

引き続き、SUS(ステンレス鋼)、アルミの材料の金額が高騰を続けており、原価を圧迫している。原油価格の高騰も同様である。アジア諸国の賃金の上昇により、海外協力会社より、強い価格アップの要望が続く。

その他の機械・同部品製造業

受注、売上は増加しているが、人材が不足傾向にあり、仕入価格や経費の増加で利益は出ない。

電気工事業

平成26年7月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲19.7で柏の方がマイナス幅が2.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.2に対し、「CCI-LOBO」が▲12.9で柏の方がマイナス幅が4.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲24.1で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.9に対し、「CCI-LOBO」が▲49.0で、柏の方がマイナス幅が7.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業で、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が11.6で柏の方がプラス幅が11.6ポイント小さい。業種別では「柏の景気」の方が良い業種はサービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲11.6で柏の方がマイナス幅が0.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、製造業では10ポイント以上悪い。

平成26年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 △ 4.1	 ▲ 18.7	 ▲ 61.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.7	 ▲ 2.1	 ▲ 14.1	 ▲ 41.0	 ▲ 16.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.2	 △ 8.3	 ±0.0	 ▲ 61.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.9	 ±0.0	 ▲ 0.5	 ▲ 38.5	 ▲ 9.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 ▲ 4.1	 ▲ 6.2	 ▲ 69.2	 △ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 24.1	 ▲ 16.3	 ▲ 17.6	 ▲ 41.2	 ▲ 22.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 41.9	 ▲ 37.5	 ▲ 56.2	 ▲ 34.6	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 49.0	 ▲ 58.2	 ▲ 53.3	 ▲ 44.3	 ▲ 46.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ±0.0	 △ 8.3	 ▲ 12.5	 ▲ 15.3	 △ 26.6
CCI-LOBO	 △ 11.6	 △ 22.8	 △ 5.1	 △ 10.6	 △ 16.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.3	 △ 4.1	 ▲ 18.7	 ▲ 30.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.6	 ▲ 4.6	 ▲ 7.7	 ▲ 20.8	 ▲ 12.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成26年7月15日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が3144企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増が足かせとなりほぼ横ばい。先行きは持ち直しの見込み

7月の全産業合計の業況DIは、▲19.7と、前月から+0.6ポイントのほぼ横ばい。駆け込み需要の反動が一部に残るものの、公共工事や自動車関連の堅調な推移に加え、夏の賞与増を含む賃上げ効果などにより、受注・売上は、緩やかに持ち直しつつある。他方、コスト増加分の価格転嫁遅れによる収益圧迫や、人手不足に伴う生産・営業活動への影響が業況改善の足かせとなつている。中小企業における景気回復の実感も、業種や企業規模などにより、まだら模様の状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.1(今月比+3.6ポイント)と、改善を見込む。反動減の影響が和らぎつつある中、賃上げなどを背景とする個人消費の持ち直しや、製造業の本格的な生産回復などが期待される。夏から秋頃に持ち直すとの見方が広がっている。他方、コスト増加分の価格転嫁遅れや、人手不足に伴う影響が幅広い業種でみられるほ

か、実質所得の低下や足元の設備投資の鈍さなどから慎重な声が聞かれるなど、先行きの見通しに、ばらつきがみられる。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間の設備投資は慎重な姿勢が続いており、工場・店舗の新設・改修等の動きが鈍い」(一般工事業)、「東京をはじめ首都圏での公共工事が増加しており、受注は好調」(一般工事業)、「リフォームは多少あるものの、新築住宅の受注低迷により、業況は悪化傾向」(建築工事業)

【製造業】「仕入価格の上昇に加え、ガソリン価格の高騰に伴う輸送費の増大などにより、採算が悪化」(畜産食料品製造業)、「受注が回復し、先行きも堅調な推移が見込まれるため、消費税率引き上げの影響から脱したように感じる」(自動車部品製造業)、「売上は伸びているが、電力料金上昇分の転嫁について取引先の理解が得られず、収益を圧迫している」(金属熱処理業)

【卸売業】「天候不順により、夏物衣料の出足が鈍く、受注が伸び悩んだ」(衣料品卸売業)、「4-6月期の売上は低調だったが、夏の賞与増などにより足元の売上は上向いている」(自転車等卸売業)、「ベアリングなどの売上が伸びているが、コスト増が続く中、採算面での改善が遅れている」(一般機械器具卸売業)

【小売業】「台風により一時的に客足が遠のいたものの、セールが好調なほか、ファミリー向けのイベント効果により、売上増を見込む」(百貨店)、「衣料品や住居関連の回復が遅れているが、食料品は昨年を上回る水準となつている」(総合スーパー)、「気温の低い日が多かったため、婦人服が低調。他方で、身の回り品や飲食関連の売上は好調に推移している」(商店街)

【サービス業】「貨物輸送量は例年並みまで回復。一方、燃料費や人件費の上昇により輸送コストが増大しているが、価格転嫁は進んでいない」(運送業)、「パート・アルバイトを採用したいが、周辺地域の時給が上昇しており、人員確保が難しい」(飲食店)、「観光客が増加しているものの、貸切バスが不足。一部で

は団体旅行をキャンセルせざるを得ない状況になつている」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
見通し	▲16.1	▲6.8	▲12.8	▲17.9	▲28.0	▲14.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI